

事業活動の概要

自 2012年 4月 1日

至 2013年 3月31日

社会福祉法人 溪 仁 会

2012年度 事業報告

施設名：西円山敬樹園

1. 総括

入所は初期より経営改善プロジェクトの影響か、職員の数字に対するモチベーションが高く常に満床に近く、短期の落ち込みも十分カバーできる状態で推移した。しかし、年末を含め1、2月の2カ月で23名の入院・死亡がありその補充に四苦八苦する事となった。在宅部門は介護報酬の改定があり、利用者の取り合いが懸念されていたが、案の定その様を呈してきた。通所は上期介護度の高い利用者が増え計画を大幅に上回ったものの、下期7名の方が死亡され年明けは予算比▲2名/日の状態が続いた。訪問介護は利用者減に加え、業界全体として職員の確保が難しい状況が続いており、計画を大幅に下回る結果となった。特にここは9事業のうち唯一赤字決算となった。両ステーションとも固定費が高めであり、法人として検討の必要性を感じている。居宅は人員等種々厳しい環境の中での収益確保は一安心でき、来期に向けてさらに人的充実を図りたい。GHは待機者が大幅減少したなかで、入れ替えにはかなり苦労したものの、その努力の結果年間通して安定した経営ができた。また、すべての事業に共通しているのが人材不足、特に人員不足で、募集しても応募が無く、来期の大きな課題となる。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ①毎月の運営会議で、先月の介護報酬の分析と今後の改善・対処事項の確認を行う。下期に新たに数値目標として「年間退所者数45人」を掲示し共有化する。
- ②ショートの新規送迎時間帯の検討を行う。
- ③デイの女子入浴場所の検討を行う。
- ④下記に新たに TQC の様な大げさなものではないが、部署・個人を問わず改善結果の報告、あるいは提案等を受け付ける。

<成果>

- ①常に各課、各事業が問題点を早期に発見、改善し意識付けが定着した。
- ②利用者との均衡もあり、取り組みは出来なかったが、送迎体制、受入体制の見直しの余地があると次年度以降にも継続すべき課題を見出すことが出来た。
- ③引き続き継続課題とする。
- ④職員個々の改善、改革を意識した自主活動の契機となった。

<今後の展開>

- ①各部署、各事業の目標数値達成に向け、改善・対処事項の確認必要であり、継続必要。
- ②1歩ずつではあるが、送迎体制、受入体制の見直しを継続する。
- ③次年度以降も業務の見直しを継続する。
- ④次年度も同様に改善、提案を受け付け、職員全体で向上心を持ち、当園の質の向上に努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

<西円山敬樹園（特養・短期・通所・訪問・居宅・予防）・グループホーム西円山の丘・こころ（訪問・居宅）>

医師：2名（非常勤）、看護職員：12名（内4名非常勤）、介護職員：82名（内8名非常勤）、生活相談員：5名、介護支援専門員：8名、介護予防：2名、理学療法士：1名、作業療法士：1名、言語聴覚士：1名、管理栄養士：1名、常勤ホームヘルパー：6名、非常勤ホームヘルパー：42名、事務職員他：12名（内1名非常勤）

合計職員数 175名（常勤職員118名、非常勤職員57名）

○2012年度職員異動状況（常勤職員）

採用：5名（看護職員：1名、介護職員：4名）、他事業所からの異動：2名（看護職員：1名、介護職員：1名）
退職：2名（介護職員：2名）、他事業所への異動：3名（看護職員：1名、介護職員：2名）

4. 研修参加・実施状況

○ 外部研修参加（施設職員参加状況）47回 延50名参加

○ 内部研修 ～ 事故防止2回・感染予防2回・抑制廃止/高齢者虐待防止1回・褥瘡予防1回・介護技術研修2回
その他（新人職員研修・緊急時/災害時の対応・嚥下障害と口腔ケア・認知症研修 等）
施設ケア部参加延人数464名 その他各部署にて実施

2012年度 事業報告

西円山敬樹園

【入所：定員123名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>43,800 人</u>	<u>43,995 人</u>
一日平均入所者数	<u>120.0 人</u>	<u>120.5 人</u>
入所待機者	<u>369 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.5</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2.</u>	
	<u>3.</u>	

【短期入所生活介護：定員14名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>3,103 人</u>	<u>2,474 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.5 人</u>	<u>6.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.8</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>6, 0 1 6 人</u>	<u>5, 9 7 3 人</u>
一日平均利用者数	<u>2 3. 5 人</u>	<u>2 3. 3 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2. 0</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>9, 6 9 6 回</u>	<u>9, 3 8 4 回</u>
（介護保険外）		<u>3, 5 5 5 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>2 6. 6 回</u>	<u>2 5. 7 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 8</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1, 2 9 4 件</u>	<u>1, 2 7 3 件</u>
（うち介護予防）		<u>1 9 1 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2. 1</u> （要支援1・2を除く）	

【介護予防センター】

(円山)

延相談件数 192 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：55 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：2 件

介護予防：107 件 その他：37 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>34 回</u>	<u>654 人</u>
介護予防教室	<u>31 回</u>	<u>221 人</u>
転倒予防教室	<u>28 回</u>	<u>187 人</u>
認知症予防教室	<u>59 回</u>	<u>388 人</u>
研修会・講演会	<u>1 回</u>	<u>33 人</u>
その他	<u>45 回</u>	<u>1,123 人</u>

(曙・幌西)

延相談件数 187 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：32 件 権利擁護：0 件 高齢者虐待：0 件

介護予防：113 件 その他：45 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>24 回</u>	<u>500 人</u>
介護予防教室	<u>3 回</u>	<u>23 人</u>
転倒予防教室	<u>17 回</u>	<u>198 人</u>
認知症予防教室	<u>18 回</u>	<u>224 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>42 回</u>	<u>1,078 人</u>

【グループホーム（西円山の丘）定員：27名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>9,740 人</u>	<u>9,723 人</u>
一日平均入所者数	<u>26.7 人</u>	<u>26.6 人</u>
入所待機者	<u>4 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.5</u>	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2.</u>	
	<u>3.</u>	

【訪問介護（ケアセンターこころ）】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>10,015 回</u>	<u>8,254 回</u>
（介護保険外）		<u>3,923 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>27.4 回</u>	<u>22.6 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.7</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援（ケアプランセンターこころ）】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,223 件</u>	<u>1,252 件</u>
（うち介護予防）		<u>179 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.1</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：月寒あさがおの郷

1. 総括

- 「CS の向上」～2012年度より各業務及び委員会の目的の明確化並びに業務の平準化を図るべく、介護技術手順書をはじめ各委員会のマニュアル作成に着手した。また、施設内において「教育委員会」を創設し、教育・研修体制の確立とともに組織力の強化と職員の基本的な知識の習得・向上に努めた。
- 「ES の向上」～法人創立30周年記念事業の一環として創設された3日間連続休暇を含め、付与日数の低さにもよるが、連続休暇及び年次有給休暇ともに高い取得率にて推移した。一方で、業務体制の確立が未だ不十分であったことなどから、職員間におけるコミュニケーションには課題を残したとを感じる。引き続きワークライフバランスの推進と職員一人ひとりが自発的に発言しやすい風土作りを目指す。
- 「地域への貢献」～前年度に引き続き一町内会と近隣マンションへの会場の提供や他町内会への見学対応・意見交換会の開催、平岸しらゆり幼稚園児による演奏会など、地域との交流を通して少しずつ当施設の存在意義が発揮できたものと感じる。更に「あさがおニュース」の発刊やホームページの更新により、溪仁会グループや他居宅介護支援事業所に対する広報活動をはじめた。
- 「経営基盤の安定化」～特養においては、冬期間におけるインフルエンザや感染性胃腸炎などの発生も殆ど無く概ね順調に推移したが、短期入所においては、通所利用者からの併用利用がありながらも実利用者数そのものが絶対的に少なかったことが課題となった。通所においては、冬期間による利用休止が多かった中も、現在一日平均利用者数が30名を超える曜日も見受けられるまでに至ったことなどから、ある一定の評価を受けているものと感じている。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- 予算数値目標の達成に向けて、予算策定時における加算項目が確実に算定されているかを検証し、また事業所ごとに新たな加算の算定に向けて、各々問題点等を抽出した。
- 通所介護事業が短期入所事業等のサービスに繋がっていくことの重要性を再確認した。

<成果>

- 個室効果もあるが、インフルエンザを含めた感染症対策が概ね徹底され、冬期間においても平常通りの稼働となった。
- 「看取りケア」の要望・実施により、看取りに関する職員の意識改革と若干の増収が図られた。
- 通所利用者によるショートステイ併用利用が増え、施設内シームレスサービスの重要性を再認識した。

<今後の展開>

- 上記取り組みの継続強化と適正な平均介護度の維持並びに通所介護事業を柱とした循環型サービスの確立を目指し、安定した利用者の確保に努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況<入所・短期・通所>

医師：2名（非常勤）、看護職員：10名（内非常勤：2名）、介護職員：54名（内非常勤：1名）、生活相談員：3名、介護支援専門員：1名、理学療法士：1名、管理栄養士：1名、管理者・事務職員他：5名
合計職員数：77名（常勤：72名、非常勤：5名）

○2012年度職員採用・退職等状況

採用：6名【看護職員：3名（内通所：1名）、介護職員：3名（内通所：2名）】
退職：11名【看護職員：3名（内非常勤：2名）、介護職員：6名、施設長：1名、事務職員：1名】
異動：3名【看護職員：1名、管理栄養士：1名、介護支援専門員：1名】

4. 研修参加・実施状況

○外部研修参加状況（溪仁会グループ内研修含む）

看護職員研修（全国老施協）、リーダーシップ力アップ研修（道社協）、溪仁会グループ職員研修、他
参加回数：47回（うち溪仁会グループ内研修26回）参加者数：延111名

○内部研修実施状況

看取りケア研修、感染症（ノロウイルス・インフルエンザ）研修、接遇研修、車椅子シーティング研修、他
参加者数：延437名

○その他

溪仁会グループ研究発表にてポスター演題を含め4演題を発表

2012年度 事業報告

月寒あさがおの郷

【入所：定員80名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>28,835 人</u>	<u>28,863 人</u>
一日平均入所者数	<u>79.0 人</u>	<u>79.1 人</u>
入所待機者	<u>234 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.4</u>	
協力医療機関	： <u>1. ごとう内科クリニック</u>	
	<u>2. 定山溪病院</u>	
	<u>3. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【短期入所生活介護：定員8名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,376 人</u>	<u>1,393 人</u>
一日平均入所者数	<u>6.5 人</u>	<u>3.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.8</u> （要支援1・2を除く）	

【通所介護：一般型35名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>5, 0 2 9 人</u>	<u>4, 7 5 6 人</u>
一日平均利用者数	<u>1 9 . 7 人</u>	<u>1 8 . 7 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1 . 8</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名:岩内ふれ愛の郷

1. 総括

前進となる岩内町特別養護老人ホームを2012年4月1日より無償譲渡の形で運営を引き継いだ初年度にあたります。引き継ぎにあたり、入居待機者60余名の名簿を受け取りましたが、実際に当方で個々に入居意思の確認をしたところ、待機者0名の緊急事態に驚き、後志管内・札幌などの関係機関回りを余儀なくされたスタートでした。

開設当初、直接職員が入居者へ提供するケアの基本姿勢は、主役となる入居者と職員の立場が逆転している旧態依然そのままで、今なおその改革・改善に苦慮しているところです。

そのような中、職員組織の指示命令系統と各職種の役割を明確にすることで、相互の連携に重点を置き意識改革に取り組んでいます。

また、建築33年余りが経過した建物及び設備の老朽化が進んでおり、修繕・修理の予想外の経費が発生していることも苦慮しているところであります。

しかし、徐々に職員の費用対効果とコスト意識が芽生え、入居及びショートステイの稼働率は毎月100%近く達する運営ができた一年でした。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○岩内ブロックは「コミュニティの丘」と称して、コミュニティホーム岩内はじめ全事業所を含めた各職種の代表責任者を指名出席し開催しました。

参加者：コミュニティホーム岩内施設長（医師）、岩内ふれ愛の郷施設長、ケア管理部長、

経営管理課主任、支援相談課主任、リハ課主任、栄養課副主任、

以上の7名で構成

開催日：6/26、7/24、8/21、9/25、12/25、3/26

全6回開催

<成果>

○母体となるコミュニティホーム岩内を含め「コミュニティの丘」全施設・事業所の各職種間の意思疎通が良好となり、職種代表者の指揮のもと、施設・事業所間を横断して利用者の処遇向上に取り組み、それに比例するかのようにはほぼ各施設・事業所は運営目標達成に至っています。

<今後の展開>

○2013年度も上記の形を継続し成果を上げていきます。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

施設長：1名

栄養士：1名

介護職員：24名

理学療法士：1名

看護職員：4名

事務職員：3名

相談員：1名

嘱託医：1名

○定期業務委託：給食・清掃洗濯・夜間警備・浄化槽管理

4. 研修参加・実施状況

○キャリア支援室研修参加

認知症ケア研修

楽になるクレーム対応研修会

2012年度 事業報告

岩内ふれ愛の郷

【入所：定員50名】※2012年4月1日事業開始

	目 標	実 績
延入所者数	<u>18,250 人</u>	<u>18,516 人</u>
一日平均入所者数	<u>50.0 人</u>	<u>50.7 人</u>
入所待機者	<u>20 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	: <u>平均要介護度 3.04</u>	
協力医療機関	: <u>1. 指定管理者 医療法人溪仁会 泊村立茅沼診療所</u>	
	<u>2.</u>	
	<u>3.</u>	

【短期入所生活介護：定員10名】※2012年4月1日事業開始

	目 標	実 績
延入所者数	<u>2,920 人</u>	<u>2,486 人</u>
一日平均入所者数	<u>8.0 人</u>	<u>6.8 人</u>
要介護度状況	: <u>平均要介護度 2.38</u> (要支援1・2を除く)	

2012年度 事業報告

施設名： 菊水こまちの郷

1. 総括

年間を通して、特養においては長期入院が多く新規入居の調整に時間がかかった。空きベッドと入退居の調整を迅速に対応する事が必要であった。アベレージに関しては前年度とほぼ同様(27.8名)。小規模多機能は上期実績が24.2名と目標を上回る結果であったが下期に入り登録休止が増加し、下期実績22.8名となり目標を下回る結果になった。小規模多機能に関しては新規登録者の獲得が大きな課題となる。

年度中の職員異動5名、特に施設長(管理者)の変更等があり当施設としては大きな出来事であった。しかし、各所属長の協力もあり、ご利用者様やご家族様からの苦情や骨折事故等なく施設運営する事ができた。また、昨年同様に看護と介護の医療ケアの連携協働も取り組む事ができ看取りケアも実施した。

施設全体でも職員スキルアップのための勉強会(こまちアカデミー)を開催。介護福祉士受験者が全員合格した。今後職員スキルアップを図るため勉強会(こまちアカデミー)を開催したい。

2012年7月、施設開設5周年を迎え改めて、地域との交流も徐々に増えている。特養・小規模多機能の両サービスのアベレージ維持はもちろん、地域密着型サービスの特徴を活かした地域交流と業務の効率化を図りながら経営基盤の安定化に向けた努力を行っていきたい。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

・毎月第2金曜日(17:30~)開催

- 1) 2011年下期から検討している介護職員シフト調整(遅出3名⇒2名)
- 2) 特養・小規模利用者様の区分変更
- 3) 加算算定
- 4) 計画停電

<成果>

- 1) 何度か試験的に遅出3名⇒2名で勤務したが、業務内容調整等が必要であるため今後も検討が必要。
- 2) 入居・小規模共にご本人様、ご家族様に説明し必要に応じて実施した。今後も継続して実施する。
- 3) 2012年度に創設された「口腔機能維持管理加算」を算定できるように検討し、数名であるが算定している。
また、必要に応じて「認知症専門ケア加算Ⅰ」と「看取り加算」も算定できた。
- 4) 北電からの協力依頼があり、職員「節電」の意識が高まった。夏場の電気使用量は削減できたが、冬場は計画通りの削減までは至らなかった。

<今後の展開>

改めて『経営管理プロジェクト会議』の開催意図(利益率5%以上・人件比率60%以下)を参加メンバーと再確認する。その上で上記の1)~4)の検討課題を引き続き協議していく。特に、業務内容見直しによるシフト調整、そして、それに伴う職員の異動等も含めた協議を実施する。

3. 職員状況(3月末現在)

○2013年3月31日職員状況

医師：1名(非常勤)、看護職員：3名、介護職員：29名、生活相談員：1名、管理栄養士：1名、
介護支援専門員：1名、事務職員他：2名、非常勤介護職員：2名

○2012年度職員異動状況

採用13名【介護職員：11名(新卒3、転籍1、契約1、派遣3、非常勤3)、看護職員：1名、管理栄養士：1名】
退職 6名【介護職員：5名(準職1、派遣2、非常勤2)、看護職員：1名】
異動 5名【施設長：1名(喜らめきの郷)、介護職員：3名(あさがおの郷1名、喜らめきの郷2名)
管理栄養士：1名(あさがおの郷1名)】

4. 研修参加・実施状況

○内部研修実施回数：10回 延べ参加者：278名

接遇、リスクマネジメント、認知症の理解、緊急時対応、感染対策、交通安全、事故防止、褥瘡ケア、虐待防止、
看取りケア、他施設見学、等

○外部研修参加回数：38回 延べ参加者：98名

認知症介護実践者研修、認知症介護実践リーダー研修、ユニットリーダー研修、特養看護と介護の連携協働研修、
介護職員等たん吸引等実地研修指導者講習、施設長研究セミナー

○今後も各委員会中心に活動のレベルアップと積極的な外部研修(全職員参加)参加の機会作っていく。

2012年度 事業報告

菊水こまちの郷

【入所：定員29名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>10,404 人</u>	<u>10,156 人</u>
一日平均入所者数	<u>28.5 人</u>	<u>27.8 人</u>
入所待機者	<u>174 人</u> (3月末現在)	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 3.86</u>	
協力医療機関	： <u>1. 広川内科クリニック</u> <u>2. 白石中央病院</u> <u>3. 白石江仁会病院</u> <u>4. 札幌ひばりが丘病院</u> <u>5. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	

【小規模多機能型居宅介護：登録者定員25名（通い定員15名、宿泊5名）】

	目 標	実 績
延登録者数	<u>8,812 人</u>	<u>8,584 人</u>
※延通い利用者数		<u>4,860 人</u>
※延宿泊数		<u>4,860 人</u>
※延訪問数		<u>1,974 人</u>
一日平均登録者数	<u>24.0 人</u>	<u>23.5 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.16</u> (要支援1・2を除く)	

2012年度 事業報告

施設名：カームヒル西円山

1. 総括

年度当初は入居者数99名でスタートしたが、年度途中入院者が7名となる月もあった他、9月から夫婦部屋利用者の配偶者が退居するケースが相次ぎ、3月末で夫婦部屋を1名で利用しているケースが3室と入れ替え調整ができず、年度末では95名とこれまでで最低の数字となった。改めて夫婦部屋の待機者及び即入居希望者の確保が課題である事を認識させられた。夫婦の入居者確保のため年に数回、関係機関、行政相談窓口への営業も実施したが、入居には至らなかった。

ケア提供の面では、昨年度から取り組んできた介護支援専門員業務を見直した結果がようやく形となり、安定したシステムとして定着してきたことから、更に一歩前進した中で個別ケアに向けて取り組みを始めている。次年度は職員の担当制や勤務体制などを検討しながら、ケアハウスにおける介護機能の可能性を検討し一定程度の要介護者の受け入れが可能となることで、定数安定に繋げたい。

職員教育面では、今年度目標であった介護支援専門員の受験者2名中1名が合格となった。その他施設外部とのかかわりの第1歩として、行事や、その他の機会を通じて家族とのコミュニケーションの機会を確保することに心掛けてきたが、初年度としては、行事への参加人数が目標を3倍も上回る参加者であったことは大きな成果であったように思われる。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

毎月1回の定例役職者会議で、前月の実績と当月の定数、予算執行について確認を行うと共に経費の削減と業務の効率化について検討を実施する。特に特定利用者の定数を安定的に確保、継続できるための個別ケアの提供を検討してきた。収支・業務改善に関することは、職員会議にて全職員へ周知し再度検討して施設として、経営、ケアに関する改善を目指して実施してきた。

<成果>

収支面では、諸経費の節約意識が各職員にも意識付けられて予算を意識した経費の執行を実施できるようになってきた。また、特定利用者へのケア提供に関しては、個別ニーズをしっかりとアセスメントしてケアプラン作成と、その内容に基づいた個別ケアの提供が可能となる職員の意識変革と、体制を改善することができた。

<今後の展開>

ケアハウスにおいては、地域包括ケアシステムの中での高齢者の居住系施設の位置づけをされていない状況である。そのため、地域の社会資源としてはその役割が弱く経営も脆弱になることへ危機感をもち、個別的ニーズに合わせたケアを提供することで、安定した定数を確保する。(個別担当制の導入や、職員体制の検討、家族と関係作り)また、定期的に地域包括支援センターや行政窓口、他可能性のある関係機関にも施設のPRを行い相談、待機者の確保するように、年間活動計画を実施する等、前述の通り内部システムの確立との両輪で経営状態の安定を図りたい。

3. 職員状況(3月末現在)

○2013年3月31日職員状況

看護職員：3名(内1名育休中)、介護職員：10名、相談員：1名、事務職員他：2名、合計：16名

○2012年度職員採用・退職等状況

退職⇒看護職員：1名、介護職員：1名、相談員：0名(2013/4/1介護職員1名採用済)

採用⇒看護職員：0名、介護職員：0名、相談員：0名

異動⇒看護職員：2名、介護職員：0名、相談員：0名

○看護職員2名(産休、退職)により敬樹園、本部より異動。

4. 研修参加・実施状況

○参加：31回 参加者：延べ107名

外部研修：札幌市老人福祉施設協議会、北海道、札幌市社会福祉協議会、溪仁会等

内部研修：高齢者虐待防止研修、感染症対策研修、自己防止対策研修、認知症研修(外部講師招聘)

○介護福祉士、介護支援専門員：各1名資格取得。

・2012年度は、自主研修にも積極的に参加した。(介護職員は1回以上)

2012年度 事業報告

カームヒル西円山

【入所：定員100名（特定施設含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,600 人</u>	<u>35,882 人</u>
（うち特定入居者）		<u>12,025 人</u>
一日平均入所者数	<u>100.0 人</u>	<u>98.3 人</u>
（うち特定入居者）		<u>32.9 人</u>

入所待機者（3月末現在） 個人：97人 夫婦：12人 うち特定：60人

要介護度状況 ： 平均要介護度 1.3 （要支援1・2を含む）

協力医療機関 ： 1. 札幌西円山病院

2.

3.

2012年度 事業報告

施設名: コミュニティホーム白石

1. 総括

2012年度介護報酬改定を受けて、コミュニティホーム白石は老人保健施設に対してより鮮明に求められた「在宅復帰・在宅支援機能を果たすこと」を基本方針とし、同時に、入所アベレージの向上による経営の安定を目標とした。

具体的には、在宅復帰・在宅療養支援機能加算の算定要件（前6か月間の在宅復帰率30%他）を充たすことを目標とし、8月以降は10月を除き加算を算定することができた。2012年度の在宅復帰は延23名の実績であった。

一方、入所アベレージの向上については、目標とした循環型（反復）利用者の獲得が進まず待機者を確保することができなかった。在宅復帰の促進と併せて目標アベレージの達成が運営課題と認識している。

また、12月にノロウイルス集団感染が発生したことも経営的に大きなダメージとなった。入所者19名、職員10名に症状が現れた。集団感染予防に対する意識向上と発生した場合の迅速な対応を継続的に研修する必要がある。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

毎月1回、検討会議を開催し施設運営上の課題について協議を行った。

参加者： 施設長、施設ケア部長、経営管理部長、リハビリテーション部長、経営管理課長、支援相談課主任、施設管理課長、他関係部署

議 題： 利用状況（アベレージ）確認、加算算定状況及び新規加算、新規事業（訪問リハビリテーション）の取組み、新規入所者受入れに向けた合意形成、在宅復帰を促進する為の仕組み作り、その他、運営上の課題について都度協議した。

<成 果>

- 1 老人保健施設では、在宅復帰支援施設を目指すことを意識共有することで、8月以降は7か月間で「在宅復帰・在宅療養支援機能加算」を算定した。
- 2 短期入所生活介護では、8月から新たに「機能訓練体制加算」を算定した。
- 3 グループホームでは、8月から「医療連携体制加算」を算定した。
- 4 新規事業として、老健の訪問リハビリテーションの開設を検討し、2013年5月の開設に繋がった。
- 5 その他、時々の課題を検討し、サービスの向上や職員のモチベーション向上に繋げている。

<今後の展開>

現在の検討会議は継続して開催し運営会議と連動することで、基本方針や目標に対して全部署が共通の意識で協働する体制作りを目指していく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

医師：1名、看護師（准看護師含む）：17名、介護職員：77名、作業療法士：9名、言語聴覚士：3名、相談員：5名、介護支援専門員：9名、地域包括・介護予防：15名、管理栄養士：1名、事務職員他：15名、常勤ホームヘルパー：4名、非常勤ホームヘルパー：26名 ※育児休業：2名、育児短時間勤務：2名

○2012年度職員異動状況

採用：37名（看護職員：5名、介護職員：19名、作業療法士：2名、相談員：1名、介護支援専門員：4名、地域包括：3名、事務職員他：3名）

退職：31名（看護職員：5名、介護職員：21名、理学療法士：1名、介護支援専門員1名、常勤ホームヘルパー：2名、事務職員他：1名）

転入： 1名（事務職員：1名）

転出： 3名（介護職員：1名、相談員：1名、事務職員：1名）

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ本部主催研修会：延155名参加。

○溪仁会グループ研究発表会：5演題発表、31名参加

○北海道老人保健施設大会：1演題発表、8名参加

○外部研修：日本作業療法学会1名参加、日本言語聴覚学会2名参加、

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会3名参加、その他の外部研修78回延136名参加

○内部研修：白石全体研修「食中毒及び集団感染予防研修会」70名、「集団感染防止研修会」60名、「接遇研修会」2回延91名参加

○その他：各部署が部内研修及び勉強会を多数実施

2012年度 事業報告

コミュニティホーム白石

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>35,408 人</u>	<u>34,823 人</u>
一日平均入所者数	<u>97.0 人</u>	<u>95.4 人</u>
入所待機者	<u>1 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.6</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 札幌西円山病院</u>	
	<u>2. 白石中央病院</u>	
	<u>3. 札幌ひばりが丘病院</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>9,816 人</u>	<u>8,825 人</u>
一日平均利用者数	<u>40.0 人</u>	<u>36.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.2</u> （要支援1・2を除く）	

【短期入所生活介護：定員 19 名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>5, 5 9 8 人</u>	<u>5, 3 2 4 人</u>
一日平均入所者数	<u>1 5. 3 人</u>	<u>1 4. 6 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2. 2</u> （要支援 1・2 を除く）	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数（介護保険）	<u>1 3, 8 2 5 回</u>	<u>1 2, 8 5 7 回</u>
（介護保険外）		<u>1, 7 4 9 回</u>
一日平均利用回数（介護保険）	<u>4 5. 0 回</u>	<u>4 1. 9 回</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 7</u> （要支援 1・2 を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2, 8 2 0 件</u>	<u>2, 6 1 4 件</u>
（うち介護予防）		<u>4 8 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 9</u> （要支援 1・2 を除く）	

【地域包括支援センター】

延相談件数 741 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：601 件 権利擁護：8 件 高齢者虐待：2 件

介護予防：36 件 その他の保健福祉サービス：22 件

認知症に関すること：21 件 その他：76 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>2 回</u>	<u>0 回</u>
個別処遇検討会議	<u>8 回</u>	<u>0 回</u>
連絡会議	<u>0 回</u>	<u>0 回</u>
運営推進会議	<u>0 回</u>	<u>86 回</u>
地区組織関係会議	<u>50 回</u>	<u>29 回</u>
その他	<u>8 回</u>	<u>7 回</u>

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>1,385 件</u>	<u>697 件</u>	<u>89 件</u>

【介護予防センター（白石中央）】

延相談件数 77 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：24 件 権利擁護：1 件 高齢者虐待：1 件

介護予防：14 件 その他：37 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	<u>50 回</u>	<u>682 人</u>
介護予防教室	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
転倒予防教室	<u>4 回</u>	<u>52 人</u>
認知症予防教室	<u>4 回</u>	<u>53 人</u>
研修会・講演会	<u>0 回</u>	<u>0 人</u>
その他	<u>1 回</u>	<u>47 人</u>

【グループホーム（白石の郷）定員：18名】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>6,497 人</u>	<u>6,414 人</u>
一日平均入所者数	<u>17.8 人</u>	<u>17.6 人</u>
入所待機者	<u>18人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.9</u>	
協力医療機関	： <u>1. よつばクリニック</u>	
	<u>2. 札幌歯科口腔外科クリニック</u>	
	<u>3.</u>	

【通所介護（白石の郷）：一般型55名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>13,555 人</u>	<u>12,595 人</u>
一日平均利用者数	<u>44.0 人</u>	<u>40.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.1</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム八雲

1. 総括

- 介護報酬の実質マイナス改定により大幅な収益減が懸念されたが、入所受入の迅速化、固定経費の縮減や新規加算項目の算定、訪問リハの新規開設などにより大きな影響なく運営することができた。しかし、12月に発生したノロウイルスの集団感染は、入所者、職員合わせて31名が感染し、予定されていた入所受入の中止や通所リハの3日間の営業停止など経営面や職員の精神面にも大きな影響を与えた。
- 収支予算面では、収益はほぼ目標に近い額を確保することができたことと、職員の中途退職や産休・育休者の発生、時間外の縮減など人件費の支出減もあって一定の純利益を上げることができた。
- 新規事業関連では2012年8月1日より訪問リハビリテーション事業所を開設、現在6名の利用者を獲得し収益増に貢献している。また、2013年4月1日から訪問介護事業所を開設することができた。
- 人事面では職員の産休や退職者が数名あったが、適正な人員配置により支障なく推移し、有給休暇取得率60%を超えることができた。定着率も向上しているので今後もワークライフバランスの推進に努める。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○費用節減

- ①投薬処方の見直し、医薬品の在庫整理を行い医薬品購入費の節減を図った。
- ②デマンド監視装置の設置、電灯の間引き、LED電球への交換など節電に努めた。
- ③夜間の会議や日中業務を見直し勤務時間内で実施することで時間外勤務手当の縮減を図った。
- ④ユニフォームの一部を家庭で洗濯、使い捨て食器を洗浄用の食器に交換、名刺の自前印刷、使われていない事務用品のリユースなどの経費節減を図った。

○収益確保

- ①2012年8月1日から訪問リハを開設、入退所前後訪問指導加算、所定疾患施設療養費などの取得可能な加算項目を算定、さらに通所リハにおけるリハマネ加算の拡充を図った。
- ②地域貢献活動の一環として、施設のPRを兼ねた介護応援教室の開催や町主催の「健康まつり」に参加協力し潜在的利用者の発掘に努めた。

<成果>

- 医薬品購入費、電気料金、時間外手当の縮減など合わせて約300万円の経費が圧縮された。
- 訪問リハの開設、新規加算項目の算定、リハマネ加算の拡充で約170万円の増収となった。
- 介護応援教室の開催や健康まつりに参加したことで、居宅支援事業所やデイケアの利用に繋がった。

<今後の展開>

- 地域のニーズに応えるため訪問介護事業所を2013年4月1日に開設、6名の利用者を獲得し順調なスタートを切ることができた。今後は利用者を増やし運営を軌道に乗せていきたい。
- 介護応援教室の開催や健康まつりへの参加は、施設のPRと埋もれている利用者の発掘に有効なことから毎年継続して実施していく。
- 引き続き時間外の縮減や経費の無駄を徹底的に洗い出し経費節減に努めていく。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

医師：1名、看護職員12名（非常勤2名）、介護職員36名（非常勤2名）、療法士6名、管理栄養士2名、介護支援専門員3名、相談員3名、事務職員他8名（非常勤4名） 合計71名（常勤63名、非常勤8名）

○2012年度職員異動状況

採用：6名（介護職員：4名、療法士1名、介護支援専門員：1名）
異動：1名（介護職員：1名）
退職：7名（看護職員：2名（非常勤）、介護職員：4名、療法士：1名）

4. 研修参加・実施状況

○内部研修：10回 延べ参加者：204名

主な内容：救急救命実践、スキルアップ、抑制廃止、リスク管理、高齢者虐待防止、感染症対策

○外部研修：62回 延べ参加者：109名

主な内容：抑制廃止研修、認知症ケア研修、認知症介護実践研修、医師研修、介護技術中級研修
介護福祉士養成実習指導者研修、健康管理研修、虐待防止研修、手洗指導者育成講習など

2012年度 事業報告

コミュニティホーム八雲

【入所：定員90名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	32,120 人	31,588 人
一日平均入所者数	88.0 人	86.5 人
入所待機者	6 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.9（短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 八雲総合病院	
	2. ヤクモ歯科クリニック	
	3.	

【通所リハビリテーション：定員40名】

	目 標	実 績
延利用者数	7,392 人	7,188 人
一日平均利用者数	24.0 人	23.3 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.2（要支援1・2を除く）	

【訪問リハビリテーション】※2012年8月1日事業開始

	目 標	実 績
延利用者数	160 人	164 人
一月平均利用者数	20.0 人	20.5 人
要介護度状況	： 平均要介護度 3.0（要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>9 0 5 件</u>	<u>8 5 1 件</u>
(うち介護予防)		<u>1 4 0 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1. 9</u> (要支援 1・2を除く)	

2012年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム美唄

1. 総括

- ・2012年度の入所者数の月平均は77.1名、短期入所は1.1名、合計78.2名とほぼ目標を達成した。
入所の内訳：在宅（11名）、施設（2名）、病院（14名）、再入所（15名） 合計42名
退所の内訳：在宅（2名）、施設（4名）、入院（29名）、死亡（7名：6名は看取り） 合計42名
- ・通所リハビリの月平均利用者は34.7名であったが、新規利用者は42名（予防：24、介護：18名）いたことと、日から土への曜日変更が功を奏し、土曜については平均利用者が24名に達し対前年比7名以上増加できた。
- ・2013年1月、ノロウイルスに入所者及び通所利用者が罹患。終息するのに14日間（その内5日間は通所リハビリの営業休止）を要し、施設運営に大きなダメージを被る。
- ・ノロウイルス、インフルエンザ発生防止対策にドライミストによる湿度管理、次亜塩素酸による施設内消毒、入所者・利用者・ご家族・全職員の手指消毒の習慣化を促し衛生管理の徹底を図った。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

2012年5月に開催の施設運営会議において、「すまいる」を含む各部署における利用者増についての考え方（方策・計画等の提案）を集約し、報告により参加メンバーの共通認識とした。それ以降は、6・7・10月に同会議の中で、経営改善プロジェクトとして、アベレージの向上や各経費の削減方策を重点に、現状・課題・課題を解消するための方策・実施方法等について各参加者が提案し、これに基づき実施した取り組みの進捗状況、実施結果および課題を3月の会議で報告、同時に2013年度の重点目標の確認を行った。（美唄ブロック施設運営会議メンバー～主任以上の役職者）

<成果>

PRや他機関との連携等各所属共通の提案もあったが、通所系の利用メニューの工夫や利用環境の改善、入所における看取り介護の開始、短期入所の受入れ促進や他科受診の減少、自前での施設整備など、各所属独自の利用者増・経費削減（節減）方策の実施により、一定の成果が得られた。

ただ、成果を上げるためにはそれぞれの工夫だけでは限界があり、更なる利用者増を図るためには、環境整備のための資材購入や体制整備のための職員増など、新たな経費が必要となる事も考えられる。

<今後の展開>

昨年度は、プロジェクトの進め方を試行錯誤する中で、定期的な開催が出来なかった事もあり、今年度は、6月（今年度目標・実施内容確認）・9月（上半期進捗状況）・12月（翌年度予算に反映）3月（年度総括・翌年目標）の四半期ごとに開催予定としている。

なお、昨年は、具体的な数値を提示する所属もあったが、経費的効果の算出がほとんど無い状況であった。個別の方策に係る経費効果を表すことは非常に難しいが、今後は経費効果の算定も必要と考える。また、昨年度は、各所属長が提案・実施状況を報告し、他の参加メンバーがそれを聞くという状況が多く、議論するということがほとんど無い状況であったため、単なる報告会とならないような運営を図る必要がある。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

医師：1名、療法士：7名（内、非常勤：2名）、看護職員：13名（准看護師を含む）、
介護職員：45名（内、非常勤：8名）、栄養士：1名、相談員：2名、事務・施設管理：6名、
清掃・運転：12名（非常勤） 合計：84名

○2012年度職員異動状況

看護職員 ⇒退職：3名、採用：1名
療法士 ⇒退職：1名
介護職員 ⇒退職：2名、採用：2名
清掃・運転⇒ 採用：11名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

実施回数：51回 参加者：延71名
主な研修名称：溪仁会グループ研修会、老健協主催研修会、道介護福祉士会研修会、道社協他
・人材育成の為、積極的に研修受講を促した。

2012年度 事業報告

コミュニティホーム美唄

【入所：定員80名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	28,835 人	28,526 人
一日平均入所者数	79.0 人	78.2 人
入所待機者	11 人（3月末現在）	
要介護度状況	： 平均要介護度 2.6（短期療養除く）	
協力医療機関	： 1. 市立美唄病院	
	2. 宝崎歯科分院	
	3.	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	12,014 人	10,681 人
一日平均利用者数	38.0 人	34.7 人
要介護度状況	： 平均要介護度 2.3（要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：コミュニティホーム岩内

1. 総括

1. 入居に関しては目標の稼働率を達成し、昨年の実績を超えた。
2. 通所リハビリに関しては、稼働率はほぼ達成し収益については約107%の達成率であった。
3. 訪問看護は年間を通して延利用者数を100名以上伸ばすことができ、収益の確保もできた。
4. 小規模通所介護事業所まへれば、下期から稼働率目標を達成でき、顧客の確保ができた。
5. 居宅介護支援事業所さつきを在宅サービスの拠点として活動を行うため開設した。
6. 岩内町の委託事業「岩内町地域包括支援センター」では、介護予防事業に尽力した。
7. 事業所内保育所などの利用により職員が働きやすい環境作りを行った。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

○岩内ブロックは「コミュニティの丘」と称して、コミュニティホーム岩内はじめ全事業所を含めた各職種の代表責任者を指名出席し開催しました。

参加者：コミュニティホーム岩内施設長（医師）、岩内ふれ愛の郷施設長、ケア管理部長、
経営管理課主任、支援相談課主任、リハ課主任、栄養課副主任、
以上の7名で構成

開催日：6/26、7/24、8/21、9/25、12/25、3/26
全6回開催

<成果>

○母体となるコミュニティホーム岩内を含め「コミュニティの丘」全施設・事業所の各職種間の意思疎通が良好となり、職種代表者の指揮のもと、施設・事業所間を横断して利用者の処遇向上に取り組み、それに比例するかのようにほぼ各施設・事業所は運営目標達成に至っています。

<今後の展開>

○2013年度も上記の形を継続し成果を上げていきます。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

医師：1名（常勤）
療法士：10名（理学6名・作業3名・言語1名）
栄養士：1名
看護職員：21名（正職員14名・非常勤職員7名）
介護職員：73名（正職員20名・契約、非常勤職員53名）
相談員：8名
事務職員：9名（非常勤職員6名）
合計：123名

*有資格者の定数配置はできている。

4. 研修参加・実施状況

○看護・介護基礎研修 担当職員
○新人研修 学卒新人職員
○ユニットケアについて 全職員
○ユニットリーダー研修 2名（前期1名・後期1名）

2012年度 事業報告

コミュニティホーム岩内

【入所：定員100名（短期療養含む）】

	目 標	実 績
延入所者数	<u>36,135 人</u>	<u>36,382 人</u>
一日平均入所者数	<u>99.0 人</u>	<u>99.7 人</u>
入所待機者	<u>14 人</u> （3月末現在）	
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.88</u> （短期療養除く）	
協力医療機関	： <u>1. 協会岩内病院</u>	
	<u>2.</u>	
	<u>3.</u>	

【通所リハビリテーション：定員50名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>10,548 人</u>	<u>10,530 人</u>
一日平均利用者数	<u>41.3 人</u>	<u>38.9 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.62</u> （要支援1・2を除く）	

【地域包括支援センター】

延相談件数 106 件

相談内容（重複有）

介護保険制度：61 件 権利擁護：6 件 高齢者虐待：4 件
 介護予防：35 件 その他：4 件

会議開催、参加等

	主 催	参 加
運営会議	<u>12</u> 回	<u>12</u> 回
個別処遇検討会議	<u>1</u> 回	<u>1</u> 回
連絡会議	<u>2</u> 回	<u>2</u> 回
運営推進会議	<u>2</u> 回	<u>6</u> 回
地区組織関係会議	<u>0</u> 回	<u>3</u> 回
その他	<u>1</u> 回	<u>6</u> 回

新予防給付の入手とプラン作成件数

	入手数	直営プラン	再委託
要支援	<u>48</u> 件	<u>44</u> 件	<u>4</u> 件

【訪問看護】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>2,880</u> 回	<u>3,234</u> 回
（うち介護保険外）	<u>980</u> 回	<u>1,135</u> 回
一日平均利用者数	<u>10.5</u> 人	<u>13.3</u> 人

要介護度状況 ： 平均要介護度 2.46 （要支援1・2を除く）

【通所介護（ま～れ）：一般型10名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>2, 2 0 6 人</u>	<u>2, 0 9 5 人</u>
一日平均利用者数	<u>8. 6 人</u>	<u>8. 2 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>3. 9</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：美唄市東地区生活支援センターすまいる

1. 総括

- ・2012年度の運営状況については、入院・入所、死亡などで利用者数を確保することが厳しく、また介護保険法改正の影響も受け、三事業所ともに目標数値には至らず、収益は、予算に比して大幅に下回る結果となった。
- ・職員配置については、年度途中・年度末において、数名の退職者が出たものの、ハローワークへの求人登録などにより、必要数を確保することができた。
- ・地域との連携については、全市的なイベントである「福祉スポーツ大会」や「市民ふれあいまつり」に参加協力をしたほか、各種実習生（56名）及びボランティア（69名）の受入れや地元老人クラブとの積極的な交流等を図った。
- ・ノロウイルス等の感染症対策については、ご利用者様の手指や上履きの消毒、職員の手洗いやうがい、マスク着用を徹底し、リスク管理に努めた結果、感染症の発症は皆無であった。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

2012年5月に開催の施設運営会議において、「すまいる」を含む各部署における利用者増についての考え方（方策・計画等の提案）を集約し、報告により参加メンバーの共通認識とした。それ以降は、6・7・10月に同会議の中で、経営改善プロジェクトとして、アベレージの向上や各経費の削減方策を重点に、現状・課題・課題を解消するための方策・実施方法等について各参加者が提案し、これに基づき実施した取り組みの進捗状況、実施結果および課題を3月の会議で報告、同時に2013年度の重点目標の確認を行った。（美唄ブロック施設運営会議メンバー～主任以上の役職者）

<成果>

PRや他機関との連携等各所属共通の提案もあったが、通所系の利用メニューの工夫や利用環境の改善、入所における看取り介護の開始、短期入所の受入れ促進や他科受診の減少、自前での施設整備など、各所属独自の利用者増・経費削減（節減）方策の実施により、一定の成果が得られた。

ただ、成果を上げるためにはそれぞれの工夫だけでは限界があり、更なる利用者増を図るためには、環境整備のための資材購入や体制整備のための職員増など、新たな経費が必要となる事も考えられる。

<今後の展開>

昨年度は、プロジェクトの進め方を試行錯誤する中で、定期的な開催が出来なかった事もあり、今年度は、6月（今年度目標・実施内容確認）・9月（上半期進捗状況）・12月（翌年度予算に反映）3月（年度総括・翌年目標）の四半期ごとに開催予定としている。

なお、昨年は、具体的な数値を提示する所属もあったが、経費効果の算出がほとんど無い状況であった。個別の方策に係る経費効果を表すことは非常に難しいが、今後は経費効果の算定も必要と考える。また、昨年度は、各所属長が提案・実施状況を報告し、他の参加メンバーがそれを聞くという状況が多く、議論するということがほとんど無い状況であったため、単なる報告会とならないような運営を図る必要がある。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

介護支援専門員：5名、訪問介護員：24名、看護職員：4名、介護職員：12名、経営管理課等：6名、
合計：51名

○2012年度職員異動状況

看護職員 ⇒退職：1名

生活相談員⇒採用（異動）：1名、退職（異動）：1名

運転職員 ⇒採用：2名

福祉入浴員⇒採用（異動）：1名、退職：1名

LSA ⇒退職：1名

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況

溪仁会グループ主催の職員合同研修会など 延べ 3名参加

その他の集合研修 延べ 11名参加

職員対象の内部研修 延べ 44名参加

訪問介護事業所内研修 毎月1回

通所介護事業所内研修 毎月1回

居宅介護支援事業所内研修 毎月1回

・2013年度は、三事業所の合同研修会を積極的に設けて、研修の充実を図る予定である。

2012年度 事業報告

美唄市東地区生活支援センター すまいる

【通所介護：一般型30名】

	目 標	実 績
延利用者数	<u>7,908 人</u>	<u>6,446 人</u>
一日平均利用者数	<u>25.7 人</u>	<u>21.0 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【訪問介護】

	目 標	実 績
延派遣回数 (介護保険)	<u>17,021 人</u>	<u>14,661 人</u>
(介護保険外)		<u>3,139 人</u>
一日平均利用回数 (介護保険)	<u>55.3 人</u>	<u>47.8 人</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 1.9</u> (要支援1・2を除く)	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>2,163 件</u>	<u>2,142 件</u>
(うち介護予防)		<u>475 件</u>
要介護度状況	： <u>平均要介護度 2.0</u> (要支援1・2を除く)	

【福祉入浴】（自主事業）

延利用者数 2, 180 人

一日平均利用者数 14.2 人

【高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業（LSA）】（受託事業）

対応件数 3, 8 4 4 件

(安否確認: 3, 661 件 相談連絡: 148 件 健康異変: 14 件

ガス漏れ警報器： 4 件 非常呼出： 17 件 その他： 0 件)

2012年度 事業報告

施設名：青葉ハーディケアセンター

1. 総括

<経営の安定化>

通所介護⇒要介護の比率を高めるために要支援の方の回数制限及び振替を実施、個別機能訓練加算Ⅱを6月より算定、要介護と要支援の比率も74%：26%まで改善し、単価が7,341円（4月）から最終的には7,910円と上昇した。予算未達ではあったが赤字幅も縮小傾向になってきている。2013年度も経営の安定化を重点に置き、目標実登録180名以上 単価8,000円台を目指していきたい。

訪問看護⇒上半期は、常勤職員が総入れ替えするなど、不安定要素があり、利用者数が伸びなかった。下半期は、11月から理学療法士が常勤となり、リハビリを中心に徐々に利用者数が伸びた。2013年度も引き続き利用者獲得に、努めていきたい。

居宅介護⇒第1四半期は休止が多く、利用者増には至らない現状があった。7月以降は新規利用者の相談件数が安定的にあったこと、休止件数の減少により利用者が増加傾向に転じることができた。事業所が健全であることが、事業所の収益に繋がる。各自が目標をもって業務に取り組める環境維持に努めた。

<人材の育成と確保>

通所介護⇒退職者：3名（理由：家庭の都合：2名、体調不良：1名）

訪問看護⇒退職者：2名（理由：家庭の都合）、異動：2名（転入：1名、転出：1名）

<総括>

職場環境としては徐々に改善されてきたが人材育成・教育の面で劣っており、次年度は内部・外部研修会を実施・参加させ業務の質の向上と各職員のスキルアップに努める。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

通所介護⇒①単価の上昇を計るべく昨年に続き、多彩な行事を企画し要介護と要支援の調整をしながら追加者をとっていった。また、要支援者の利用回数制限も徹底している。6月からは個別機能訓練加算Ⅱを算定して単価上昇に努めた。

居宅介護⇒①4月の法改正、7月の職員移動により事業所内は慌ただしい状況の中、新規利用者の獲得、既存の利用者の安定した利用など、収益の安定を図るべく努力をした。

②勤務時間内での業務の終了を目指し、疲れを溜めないよう各自業務の改善を図るように心がけた。

<成果>

通所介護⇒①要支援者が介護へ移行する方が多いのもあり、4月時点で（要介護67%）（要支援33%）であったが、活動により3月には（要介護74%）（要支援26%）まで比率が上がってきている。

居宅介護⇒①管理者の変更、4月の法改正で戸惑う職員もいたが、7月よりケアマネ経験のある職員を採用したことで、少しずつ事業所内も落ち着きを取戻した。各自が目標とする担当件数40件に近づける、加算の算定に努める、毎月実績報告を職員に周知することで、数字に対する意識が持てたことにより、結果、年度末には経常収益1,890千円 利用者数147名 収益は目標数値を超えることができた。

<今後の展開>

通所介護⇒①個別機能訓練加算Ⅱの算定者が1日5～6名程度の為、今後は算定者を増やし更に単価上昇に努める。

居宅介護⇒①厚別区に新規事業の立ち上げが増え、現在のところ影響はないが今後は地域の拡大も検討していきたい。

②業務は多忙であったが、年次有給休暇は56% 連続日数は80%であった。

③内部、外部研修会に積極的に参加し、研修の講師を法人内から協力を得る。

3. 職員状況（3月末現在）

通所介護⇒管理者：1名、相談員：1名、介護職員：17名（内非常勤：5名）看護職員：5名（内非常勤：4名）、運転職員：4名（非常勤）

訪問看護⇒管理者：1名、看護職員：4名（内非常勤：1名）、理学療法士：1名、作業療法士：1名（非常勤）

居宅介護⇒管理者：1名（介護支援専門員兼務）、介護支援専門員：5名（内主任ケアマネ：1名）

4. 研修参加・実施状況

通所介護⇒溪仁会グループ主催職員研修会（10名参加）宮村課長主催どんぐりの家体験実習（2名参加）

訪問看護⇒札幌市主催2名、訪問看護ステーション連絡協議会主催1名、溪仁会グループ主催3名

※2013年度は、予算に研修費を計上させていただいたので、積極的に研修参加を奨励していきたい。

居宅介護⇒溪仁会内部研修、札幌市介護支援専門員連絡協議会主催研修、北海道介護支援専門員協会主催研修、厚別区ケアマネ連絡協議会主催研修等

2012年度 事業報告

青葉ハーティケアセンター

【通所介護：一般型60名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>16,423 人</u>	<u>14,965 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>53.3 人</u>	<u>48.7 人</u>
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 <u>1.6</u> （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	<u>1,613 件</u>	<u>1,720 件</u>
（うち介護予防）		<u>182 件</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>1.7</u> （要支援1・2を除く）	

【訪問看護（あおば）】

	目 標	実 績
延派遣回数	<u>3,005 回</u>	<u>2,470 回</u>
（うち介護保険外）	<u>278 回</u>	<u>245 回</u>
一日平均利用者数	<u>12.3 人</u>	<u>10.1 人</u>
要介護度状況	： 平均要介護度 <u>2.3</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：豊平ハーティケアセンター

1. 総括

<経営の安定化を図ること>

通所介護収益を確保する為、新規利用者の獲得に向けての居宅介護支援事業所への営業活動と市営住宅マンションを中心としたポスティング、要介護者の追加利用アップに繋げる行事の企画、要支援者の利用回数適正化による一日平均単価の底上げに向けた取り組みを実施する。結果として、新規利用者数は予算対比▲20名の52名、1日平均利用者数は前年対比▲2.7人の56.4人、一日平均単価は介護保険の改定に伴うサービス提供時間の変更により前年対比+250円の7,649円となるも予算対比▲98円となる。

介護保険改定に伴い利用者ニーズを十分に捉えられなかったこと、職員も職場環境の変化に柔軟な適応ができず職員の離職、産休者も重なり人事管理が十分にできなかったことが、目標未達成の主因となる。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

- ・介護保険改定により活動内容の見直し、要支援者の利用回数の適正化を図る。
- ・業務の効率化による超過勤務時間の平準化と削減。
- ・固定費、流動費の見直しによる経費削減による収益の確保。
- ・マシントレーニングを廃止し、要介護者の機能訓練の充実を図る。
- ・個別機能訓練Ⅱ取得委員会の設置。
- ・新規居宅介護支援事業所への営業活動とマンションポスティング。
- ・新年度に向けて主務者によるSWOT分析。

<成果>

- ・要支援者の利用回数適正化により、1日平均単価向上に一定の効果あり。
- ・変形時間労働制の導入により、職員勤務時間の見直し超過勤務削減に繋がる。
- ・取引業者との交渉により、消耗品、自動販売機の設置料金等改善する。
- ・営業活動、ポスティングの効果は、直接ご利用者様の新規利用に結びつく成果は実感できず。
- ・主務者によるSWOT分析は、職員意欲の向上となり、波及効果が期待できる。

<今後の展開>

- ・事業所の目指すべき方向性を明確にし、居宅介護支援事業所を中心に発信する。
- ・ご利用者さま満足度の向上により、口コミによる評価を得る。
- ・非常勤職員の活用により、業務の効率化、スリム化を図る。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況<通所介護>

管理者 : 1名（正職員）
 相談員 : 1名（正職員）
 事務職員 : 1名（正職員）
 看護職員 : 3名（正職員）
 介護職員 : 15名（正職員：3名、準職員：5名、契約職員：5名、非常勤職員：2名）
 運転職員 : 3名（非常勤職員）
 合計 : 24名（正職員：9名、準職員：5名、契約職員：5名、非常勤職員：5名）

4. 研修参加・実施状況

○研修参加・実施状況<通所介護>

溪仁会グループ研修10名参加、外部研修8名参加

- ・自主性を尊重したこともあり、一人1回以上の研修参加を達成できず、次年度以降の必達取組事項とする。

2012年度 事業報告

豊平ハーティケアセンター

【通所介護：一般型70名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>18,609 人</u>	<u>17,378 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>60.4 人</u>	<u>56.4 人</u>
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 <u>1.9</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：円山ハーティケアセンター

1. 総括

①ご利用者様本位のサービス提供

ご利用者様の利用満足度向上の一環として、おもてなし向上委員会を設置し接遇の強化を継続的に実施した結果、職員のご利用者様に対する意識が高まり、ご利用者様への対応も改善された。また、業務改善委員会を中心にサービスの見直しを行い、居室のレイアウト変更の他、サービス内容の向上を図った。

②社会・地域における福祉の発展・充実

障がい者雇用で5月より1名の雇用を行い3月末時点で雇用継続中。小樽高等支援学校から2名の実習生を受け入れ、障がい者雇用として2013年度新卒採用につなげることが出来ている。

③成長し続ける組織を目指す

専門職として資格取得、各種研修等に参加し、研修後の研修発表会等も開催。継続的な障がい者雇用対策として関係機関担当者を講師として招き、障がい雇用の専門研修も実施した。

④経営基盤の安定化

年間を通して予算達成には至らなかったものの、人件費率が当初82%であったが、3月では59%と目標を達成できた。経常収益も3月で814千円のマイナスと次年度へつなげる結果が出せている。

⑤居宅介護支援事業所の開設

2012年7月1日に円山ハーティケアセンター内に事務所設置。当初2名体制だったが年度末までに3名に増員した。2013年度は特定事業所加算Ⅱ算定事業所として稼働。人員も5名体制で喜茂別町の利用者も受託している。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>毎月の運営会議を経営改善プロジェクト会議に位置づけ決定事項等を職員会議で周知し改善を行ってきた。会議ではデイサービスの収支の現状と、次月に向けての改善策、具体的行動の検討等を中心に実施した。具体策としては、延利用者数を増やすため新規利用者数目標を見直し、安定した実利用者数が確保出来る体制について検討を行った。

<成果>新規利用者数の目標を見直すことで、職員全員が日々の実績に関心を持ち、ご利用者様へのサービス向上につながった結果、年度当初、56.9名だった一日の平均利用者数が年度末に62.2名まで改善したと考えられる。一か月の新規利用者数12名、体験利用者数20名はデイサービス開始以来の新記録となっており、登録者数も過去最高の数値となった。

<今後の展開>業績の向上には、良質のサービス提供が必要不可欠となるため、継続した利用者満足度向上の具体策を経営改善プロジェクトで継続して討議し、実績に結び付けられる。また、多様化するニーズへの対応も職員全員の課題として検討し、具体的サービスに結び付けたい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

管理者：2名（所長）、生活相談員：2名、看護職員：3名（内非常勤：1名）、
介護職員：20名（非常勤：8名）、運転職員：5名（非常勤）、事務職員：1名、介護支援専門員：2名

○2012年度職員異動状況

異動者数：3名、退職者数：3名

4. 研修参加・実施状況

○溪仁会グループ、キャリア支援室研修

認知症ケアの実践（1名）、管理者マネジメント研修（1名）、グループ合同研修会（5名）、
中堅役職者研修（1名）他

○外部研修

運営セミナー、虐待防止研修 他

○勉強会

年間計画により年間7回の施設内勉強会を実施。

（コミュニケーション、介護技術、接遇研修、障害者雇用についてなど）

・直近の問題点を中心に研修・勉強会を実施した。

2012年度 事業報告

円山ハーティケアセンター

【通所介護：一般型75名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	20,711 人	18,480 人
一日平均利用者数（一般型）	66.8 人	59.6 人
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 1.9 （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】 ※2012年7月1日事業開始

	目 標	実 績
延作成件数	135 件	189 件
（うち介護予防）		28 件
要介護度状況	： 平均要介護度 1.8 （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

施設名：手稲溪仁会ハーティケアセンター

1. 総括

【通所介護】2012年度は新人教育をテーマにサービスの土台となる基本的なケアの本質を職員全員で見つめ直す1年だった。また、中堅職員には、組織の中でどのような役割を担っているのかを理解して実践してもらうよう個人面談や職員会議の場面で啓発を行った。地域交流、地域貢献は既存のものにとどまってしまったため、来年度の課題となる。

【居宅】職員配置の安定が図れないことにより、不安定な運営状況であった。新年度は人員の安定を図りサービスの質を維持し収益を安定化させたい。

【こころていね】委託相談支援事業の部分では、開設以降3ヶ月で49名の登録となり、周囲からの期待の大きさが感じられた。相談者や関係機関からの期待に応えられるような相談支援体制作りをしていく必要を痛切に感じた。

更に、障がい分野にとどまらず、介護や医療ともきちんと連携をすることで、世帯単位での支援体制を構築していくことも今後検討していく必要がある。また、相談支援を通じて地域でのニーズを拾い上げ、今後の障がい分野での新規事業展開も検討していく必要がある。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

【通所介護】月毎で利用者数が安定せず、特に冬季のインフルエンザ流行の影響で目標を大幅に下回る結果となった。

【居宅】年度中の退職や兼務の解消などにより、人員が安定しない状況が続いた。

【こころていね】2013年1月から札幌市からの委託相談支援事業と障がい児者の指定相談支援事業としてスタートした。管理者1名、相談員3名という体制で相談員2名は障がい分野の経験がないため、この分野の研修や勉強会に積極的に参加をしてもらい、興味を持って活動ができるよう一から体制作りを行った。

<成果>

【通所介護】介護度が重度化し、看護職員の負荷が高くなる傾向もみられたが、介護職員も内部勉強会などの実施でスキルの底上げが図られた。

【居宅】不安定な人員状況により、件数においても予算達成とはならなかった。

【こころていね】委託相談支援事業1月、新規登録者18名、2月新規登録者11名、3月新規登録者20名と3ヶ月で49名とハイペースでの登録者数増加となる。

<今後の展開>

【通所介護】チーム力の向上により、受け入れのキャパシティ向上を図る。

【居宅】人員の安定を図ることが最優先とし事業所としての体力を付け、予算達成に努める。

【こころていね】指定相談支援事業では2月にサービス利用計画の利用者が1名おり、今後は指定相談の件数も増やしていくことで収益増を考えていく。

3. 職員状況（3月末現在）

【通所介護】管理者：1名（生活相談員兼務）、生活相談員：2名、看護職員：4名（内非常勤：2名）、介護職員：22名（うち非常勤：11名）、運転職員（非常勤）：3名、事務職員：1名

【居宅】管理者：1名（主任介護支援専門員）、介護支援専門員：2名

【こころていね】管理者兼相談支援専門員1名、相談支援専門員1名、相談員2名

4. 研修参加・実施状況

【通所介護】手稲区在宅ケア連絡会、グループ内研修 年代別Iキャリアデザイン研修会、管理者マネジメント研修、グループ研修ロジカルシンキング、認知症ケア研修、中堅選抜者研修、通所サービス連絡会定期研修、内部勉強会・外部研修多数

【居宅】包括合同研修会2回（5名）、手稲区CM連協定例会2回（3名）、札幌市CP指導研修会（3名）、手稲区在宅ケア連（1名）、現任研修（3名）、指導者研修（1名）、認定調査員研修（1名）

【こころていね】西区地域部会研修会（北翔養護学校見学、グループワーク）3名、手稲区地域部会研修会（総合支援法講演会）3名、第3回子ども在宅ケアネットワーク3名、相談支援部会事例検討会3名、なかまも杜クリニック（当事者研究）3名、児童福祉の観点からトラウマと依存症を考える1名、手稲区在宅ケア連絡会1名、障がい児相談支援研修会1名、北区地域部会（医療とのつながり方 講師神内室長、高波MSW）3名、小児在宅医療勉強会1名、円山DS障がい者雇用勉強会2名、手稲区地域部会（ゲートキーパー基礎研修）2名

2012年度 事業報告

手稲溪仁会ハーティケアセンター

【通所介護：一般型65名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	16,793 人	16,439 人
一日平均利用者数（一般型）	54.3 人	53.5 人
要介護度状況 一般型	：平均要介護度 1.8 （要支援1・2を除く）	

【居宅介護支援】

	目 標	実 績
延作成件数	1,491 件	1,322 件
（うち介護予防）		36 件
要介護度状況	： 平均要介護度 1.8 （要支援1・2を除く）	

【介護予防センターまえた】

延相談件数 63 件

相談内容（重複有）

介護保険制度： 20 件 権利擁護： 0 件 高齢者虐待： 0 件
 介護予防： 28 件 その他： 25 件

介護予防啓発普及事業実施件数

	実施回数	参加者数
すこやか倶楽部	33 回	440 人
介護予防教室	9 回	82 人
転倒予防教室	14 回	258 人
認知症予防教室	7 回	85 人
研修会・講演会	0 回	0 人
その他	3 回	87 人

【障がい者相談支援事業】 ※2013年1月1日事業開始

◇委託相談支援事業（1～3月実績）

新規登録者	49名
（地区別）	中央区 1名 西区 6名 手稲区 42名
（障がい種別）	身体 13名 重心 2名 知的 27名 精神 5名 発達 1名 高次脳 1名
（児・者別）	障がい児 10名 障がい者 39名
支援方法	訪問 28件 来所 35件 同行 9件 電話 12件 ケア会議 4件 関係機関 23件 その他 2件 連絡・調整 131件
支援分類	福祉サービスの利用に関する支援 89件 障がいや病状の理解に関する支援 1件 健康・医療に関する支援 2件 不安の解消・情緒安定に関する支援 2件 保育・教育に関する支援 0件 家族関係・人間関係に関する支援 2件 家計、経済に関する支援 6件 生活技術に関する支援 5件 就労に関する支援 5件 社会参加・余暇活動に関する支援 1件 権利擁護に関する支援 0件 連絡・調整 131件

◇指定相談支援事業（サービス利用計画）（1～3月実績）

新規計画	2月 1件
モニタリング	3月 1件

2012年度 事業報告

施設名：新琴似ハーティケアセンター

1. 総括

1. 自立した経営と安定収益の確保

上半期は、予算及び前年割れとなりまた、実利用者数も前年割れと収益減が続いた。下半期においては、11月より前年回復したが予算未達となり今後再構築する必要がある。

2. 地域から信頼される介護サービスの提供

同地区で活動するケアマネジャーから在宅介護に関する相談を受ける機会が増えており、相互に良い関係性が構築できている。一方、町内会活動への参加が実現できていない状況であり、今後総会等に参加し交流を深める。

3. CS・ESの向上

年度途中で管理者変更となり過去の良い部分を残し、新たな体制で全職員が働き甲斐のある職場作りを新年度も継続して行い、内部顧客満足度100%を目標にし外部顧客獲得に努める。

4. 人材育成

職員一人ひとりの長所を引き出し業務内容に自信を持たせ、権限の委譲と責任の所在をはっきりさせることで職員のモチベーションアップに繋がるため、今後も管理者・主務者が職員の育成に努力する。

5. チャレンジする心

ご利用者様ニーズに対応した業務内容とする為に常にアンテナを職員全員が張り、それを協議実現させる職場環境に今後努める。

2. 経営改善プロジェクト活動状況

<活動状況>

毎月の運営会議を経営改善プロジェクト会議と位置づけ、決定事項を次週の職員会議で周知し改善を図る仕組みとした。

会議では、現状分析と今後の仮説を考え行動指針を主務者で決定するなど具体的内容で協議。

延利用者数を増加させる為の具体的方策・職員がより力を発揮させる職場環境・ご利用者様ニーズの把握について検討を行った。

<成果>

年度途中（1月）にて管理者変更となり新たな出発となったが、職員一丸となり新生新琴似ハーティケアセンターとして徐々に成果が現れてきている。

<今後の展開>

経営安定化と内部顧客・外部顧客の満足度を上げ、過去の経験に捕らわれず常に検証・仮説をもって「変化に対応」出来るセンターづくりに徹したい。

3. 職員状況（3月末現在）

○2013年3月31日職員状況

■管理者：1名 ■介護職員：23名（内非常勤：10名）
■生活相談員：2名 ■看護職員：3名（内非常勤：1名）
■運転職員：3名（非常勤）
■合計：32名（内非常勤：14名）

4. 研修参加・実施状況

【研修】・幹部セミナー（管理者）

・手稲区通所介護事業所連絡会講演（管理者、生活相談員）

・北区通所介護事業所連絡会研修（管理者、介護職員1名）

・在宅ケアを継続するための支援（生活相談員）

【施設内勉強会】5件

2012年度 事業報告

新琴似ハーティケアセンター

【通所介護：一般型60名】

	目 標	実 績
延利用者数（一般型）	<u>15,455 人</u>	<u>14,194 人</u>
一日平均利用者数（一般型）	<u>50.0 人</u>	<u>46.1 人</u>
要介護度状況 一般型	： <u>平均要介護度 1.8</u> （要支援1・2を除く）	

2012年度 事業報告

法人本部

1. 各部・室・課の活動状況

●事業推進部

【在宅事業推進室】

- ・ハーディケアセンター運営管理形態の再編
- ・ハーディケアセンター経営改善プロジェクト会議の開催
- ・行政の実地指導に対する事前の対応・支援
- ・在宅サービス事業所管理者、リーダー等への事業運営指導
- ・車輛事故（交通事故）対応業務手順の確認、車輛事故予防への対応
- ・超過勤務削減に関する対応（1ヶ月の変形労働時間制の導入・管理）
- ・苦情・事故の対応及び再発防止への対応
- ・日々の計数管理（利用者数と職員数、6・8の実態管理）の指導
- ・外出行事の見直しとボランティア・職員の昼食及び休憩時間の改善指導
- ・新規事業：居宅介護支援事業「こころまるやま」開設・障害者相談支援事業所「相談室こころていね」開設・
溪仁会在宅総合相談センター開設・準備、支援

【キャリア支援室】

- ・法人本部主催の研修会の開催（全11回：参加者延べ303人）
 - 管理者マネジメント研修会の開催（3回：参加者延べ63名）
 - 認知症ケア研修会の開催（2回：参加者延べ68名）
 - 医療と介護の連携研修会の開催（1回：20名）
 - コミュニケーション研修会の開催（2回：参加者延べ42名）
 - クレーム対応研修会の開催（1回：25名）
 - 高齢者虐待防止研修会の開催（1回：20名）
 - 在宅ケアの支援研修会の開催（1回：29名）
 - 職員の健康管理を推進するための研修会の開催（1回：11名）
 - 研究発表支援塾（1回：25名）
- ・認知症事例検討会の開催（3回3事例検討、参加者5事業所実人数5名：延べ13名）
- ・各施設・事業所の要請に応じた研修会への支援
 - 各施設・事業所の要望に応じた講義や演習の実施（9回：参加者延べ227名）
 - 各施設・事業所で開催する研修会講師の調整
 - 2011年度開催「職員の腰痛予防研修会」動画の複製
- ・各施設・事業所職員の職務能力育成システムの開発への支援
 - 施設介護職員役職者連絡調整会議への参加
 - 訪問介護事業連絡調整会議への参加
 - 職務要件カード作成会議への参加（施設ケア・訪問介護）
- ・各施設・事業所の要請に応じたメンタルヘルス及びキャリア関連の相談支援
 - メンタルヘルスに関する相談を各施設・事業所の要望に応じて実施（2施設2事業所）
 - キャリアに関する相談を個人の要望に応じて実施（2施設2事業所、実人員4名）
- ・介護現場への支援として菊水こまちの郷に毎週1日勤務
- ・インターライ方式によるケアプランを札幌研修会において事例発表

【リハビリテーション室】

- ・老健リハ連絡協議会の開催（5月・9月・11月・2月）
- ・室長の各施設への訪問（5月・11月：1か所、6月・7月・3月：2か所）市内の事業所は随時訪問
- ・養成校の就職説明会参加（1校）
- ・福）溪仁会リハ部門合同研修会、リハ室懇親会（9月）
- ・法人本部キャリア支援室主催研修会への講師派遣（延べ3名）、法人内施設・事業所への講師派遣（延べ4名）、
外部への講師派遣（延べ12名）
- ・ST派遣（毎月）：コミュニティホーム八雲、菊水こまちの郷、（12～3月）：月寒あさがおの郷・美唄
- ・OT派遣（毎月）：菊水こまちの郷

- ・研究発表（グループ研究発表会4名、全国ST学会3名）
- ・各施設リハ部門の内部研修の水平展開化
- ・訪問リハ事業の拡大
- ・研修教材データの配布
- ・実習受け入れ施設の拡大
- ・地域での他職種向け研修会、介護予防教室 他

【栄養管理室】

- ・栄養管理者会議の開催（7月・10月・2月）
 - 情報の交換（各施設の食事サービスに関する報告、各施設の運営目標の評価報告等）
- ・各施設における食事サービスの推進の支援
 - 認知症及び摂食・嚥下障害に対する食事サービスの調査第2報 研究発表（11月）
- ・勉強会の開催
 - 7月：プロバイオティクス関連について
 - 10月：脱水予防における経口補水液について
- ・月寒あさがおの郷の栄養・食事サービス業務の遂行（4月～12月）
- ・きもべつ喜らめきの郷の開設準備、ルスツ銀河荘の委託業務準備

【業務管理室】

- ・業務管理室全体会議の開催（6月書面会議）
- ・施設介護職員役職者連絡調整会議の開催（5月・8月・11月・2月）
- ・訪問介護事業連絡調整会議の開催（3月）
- ・施設看護役職者連絡調整会議の開催（9月）
- ・監督官庁実地指導（監査）立会い（17事業所：介護予防含む）
- ・内部実地指導実施（18事業所：介護予防含む）
- ・自己点検確認（30事業所／52事業所：介護予防含む）
- ・事業所事故報告確認（監督官庁報告59件）
- ・新規開設事業案件に係る調整（喜茂別、留寿都、手稲、札幌市）
- ・KMS・QMS・医療福祉介護連携会議・シームレス会議への参加
- ・老健リハ連絡会議・研修会への参加
- ・栄養管理室会議への参加
- ・各施設運営会議への参加 他

●経営管理部

【経営管理課】

- ・理事会（5月・8月・10月・12月・3月）、評議員会（5月・10月・12月・3月）の開催
- ・施設経営管理会議の開催（毎月開催）
- ・総務担当会議の開催（1月）
- ・総務・経理内部相互監査の実施（全施設）
- ・定款変更等行政に対する認可申請事務（4月・12月）
- ・新会計基準移行準備事務
- ・介護報酬請求システム運用支援
- ・各種規程の改定等（就業規則・給与規程・経理規程・旅費規程・赴任規程・ハラスメント防止規程）
- ・決算・予算及び各月度速報及び確定財務諸表作成事務
- ・各種契約案件における入札事務（30件）
- ・新規開設事業に係る支援（喜茂別）
- ・新規開設事業案件に係る申請（留寿都、手稲）
- ・ハーティケアセンター職員の人事・給与関連事務
- ・職員の定数管理
- ・資金管理システムの見直し
- ・各種会議への参加 他